

令和5年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(地歴)科目：(3年日本史A) 対象：(第3学年1組～5組)

科目担当者：(1～5組:吉積)

教科・科目の 指導目標	家庭学習の機会を作りながら、学カスタンダードに基づく基礎的な知識・技能を確実に習得することを目標とする。また、複数の史料を総合的に読み解く読解力や判断力、自らの考えを論理的かつ簡潔に述べる表現力の育成に重点を置いた指導を行う。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>定期考査のためにある程度計画立てて学習を行うことができる生徒は一定数いるが、日常的な家庭学習の習慣があったり、自分で目標を立てて一歩踏み込んだ努力ができる生徒はほとんどいない。長期的に学習内容の定着に課題がある生徒が多く、基礎知識定着を目指して反復学習を行う必要がある。</p> <p>1 歴史区分を正確に把握できている生徒は全体の10%弱</p> <p>2 歴史区分に対応する文化史や文学史への理解度は全体の5%程度</p> <p>3 複数の歴史的史料を活用した論述問題に関する正答率は、全体の5%弱</p> <p>4 地理と関連付けて歴史的事象を把握している生徒は全体の5%弱</p>	<p>1 <u>歴史区分の定着</u> 歴史の大きな流れを把握し、現代とのつながりを理解できるよう、テーマ史よりも通史を丁寧に扱い、基礎的な字出し区分の定着を目指す</p> <p>2 <u>代表的作品の理解</u> 各単元に1つ、通史に対応する形で、その時代を象徴する文化作品を紹介し、時代感覚を養う。</p> <p>3 <u>論述の出題</u> 単元のまとめや、定期考査などの機会に必ず、1題は史料活用問題または記述式問題を出題する。</p> <p>4 <u>地図を参照する授業の実施</u> 学習範囲ごとに教科書や資料集で地図を提示し、地理情報の正確な把握と比較を習慣付ける。</p>	<p>教科会にて、下記の基本的指導方針を確認</p> <p>1 <u>補講・講習の充実</u> 定期考査後や長期休業の時間を活用し、成績不振者への補講や課題の機会を設ける。また、指導対象のが学年が受験学年であることに鑑み、学習に特に意欲的な生徒は講習等の発展的な学習の機会を提供する。</p> <p>2 <u>教員間の情報交換の充実</u> 教員間での情報共有を丁寧に行い、定期考査等での成績不振者や、提出物などの未提出が多い生徒への対応を連携して行う。</p> <p>3 <u>家庭学習の機会創出</u> 小テストやワークの課題を通し、到達度の確認と家庭学習の定着を図る。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			